



24 噴火山之光景 床次正精

一面

明治十六年（一八八三）  
油彩・キャンバス  
六二・五×二二・四

床次正精（一八四二〜九七）は薩摩（鹿児島）に生まれ、慶応元年（一八六五）に藩命により海外の事情を探るべく長崎へ赴いた際に、英国人の所有する洋画を目にして感銘を受け、以降独学で油彩画を学んだ。鹿児島洋画の歴史を切り開いた人物と言えよう。維新以降は司法省に出仕しながらも、終始熱心に油彩画を描き続け、明治十二年（一八七九）に来日したグラント將軍の肖像画を描いたことで画家として世間に広く知られることとなった。明治十五年宮内省御用掛に任ぜられ、日光の名勝地を油彩画に描く御用を受けたのを始め、しばしば絵を宮内省に納めている。本図もこの時期に制作された内の一点と考えられる。

噴煙がうすく立ち上る桜島とその周囲の錦江湾を描いた本図は、水面に映る帆船の描写や遠く離れるほどに淡く変化していく山並みの色合いなど、習得した洋画の表現を用いて郷土の風景を写し取るうとする真摯な姿勢がうかがえる。その一方で、桜島や遠景の山々の描き方は洋画というよりも日本の初期洋画に近く、江戸時代後期からの真景図の影響も感じさせる。パノラマ的に横へ長く伸びた画面の形状も日本建築の欄間装飾を思わせ、まさに近世から近代への過渡期に生み出された風景画として位置づけられる。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

## 名所絵から風景画へ——情景との対話

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 76

編集 宮内庁三の丸尚蔵館  
制作 株式会社 東京美術  
翻訳 黒川廣子  
発行 宮内庁  
平成二十九年三月二十五日発行

© 2017, The Museum of the Imperial Collections, Sanjōmaru Shōzōkan